

# 『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、  
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。  
スパークスの日本株の情報発信レポート



第61号 (2011年6月30日)

## 「震災と株式市場」

東日本大震災で被災された方々にお見舞い申し上げます。

経済、市場は常に動いており、仕事柄、震災に向けた動きから目を背けるわけにはま  
りません。多少、冷静になった今、震災後の調査から感じている企業の動きについてお  
話したいと思います。

既にメディア等でいろいろなことが報道されていますように、大阪など西日本に本社を  
移そうという構想や、バックアップ体制を整えようという構想は、実際に検討が進んでいる  
というのが調査を通じての感想です。動きとして一番早いのは、データセンターや緊急対  
策プランとしてのセカンドオフィス設置、その体制整備といったところでしょうか。

震災後早々にこれらのプランに着手した企業も多く、これから本格化するとは思いますが、  
まずはITネットワークのシステム更新、データのバックアップ体制の強化などが進んで  
いると思います。また、エネルギー関連では、原発の問題からLNG、LPガスや重油などい  
ろいろな形でのエネルギー源の分散化、自家発電の設置や緊急対応としての無停電電源  
(UPS)の設置などバックアップ電源の確保などが進んでいます。オール電化で低迷してい  
たガス業界なども息を吹き返しそうです。

一方、一番肝心の復興需要としての建設、土木関連の業界は、株価こそ震災後に一時  
値上がりしましたが、また萎んでしまいました。これが実態をよく表しているという感じで、  
残念ながら政府の対応が遅く、また今回は震災の影響が広範囲に及んでいることもあり、  
なかなか需要が増えず、ずっと公共工事や住宅需要の低迷で苦しんでいた同業界は引き  
続き厳しい状況です。仮設住宅関連は需要が増加してはおりますが、本格的な建設、土木  
については逆に低迷が続いており、同業界では今年いっぱいには需要は出てこないの  
ではという悲観的なお話をされる方もいます。被災した地域からの労働力を利用している業  
界でもあるので、資材が被災地に行ってしまうだけでなく、労働力も不足気味な  
ところもマイナスになっており、しばらく回復は難しそうです。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取  
引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものでは  
ありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、そ  
の他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を  
使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものでは  
ありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されること  
もあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の  
著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用ま  
たは複製することを禁じます。

## 『 まいこばなし 』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、  
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。

スパークスの日本株の情報発信レポート

第61号(2011年6月30日)



## 「震災と株式市場」

それでは、海外投資家の震災の受け止め方はどうなのでしょう。5月に欧州各国に行きまわりましたので、その際の反応をご紹介します。一番話題になっているのは、日本人の団結力や社会性に対する高い評価です。もちろん、一部犯罪等も起きているようではありますが、整然と耐え忍び、一致団結して被災から立ち上がろうという姿勢は海外メディアでも広く取り上げられており、日本人の対応について評価が上がっているようです。しかし、残念ながらそれが日本株に投資しようという行動には結びついていない状況で、やはり政治の混乱や新興国の追い上げなどを不安に思っている投資家が多く、すでに日本株は売却してしまったという投資家も多かったように思いました。

しかし、これは逆にこれから売ろうとする人は少なく、買おうとする人が増える可能性も考えられ、悲観することはないと思います。実際、やはりお金を預けておけば、信用不安、政治不安がある欧州や新興国でなく、日本がいいのではないかと考える海外投資家も多いことが円高の一因となっていると分析する人もいます。その資金が、まだ株式市場に回っていないだけではないかと期待しています。

では、いつこれらの資金が株式市場に向いてくるのでしょうか。一つのシナリオとしては、企業業績の想定以上の回復が明確化してくる今年後半ではないかと思えます。残念ながらまだ第一四半期決算が発表される7-8月はやはり厳しい数字がでる可能性があります。しかし、われわれの調査では4月から回復傾向にあり、6月から本格回復しているという感触を持っています。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

## 『 まいこばなし 』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、  
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。

スパークスの日本株の情報発信レポート

第61号(2011年6月30日)



## 「震災と株式市場」

次のページの図は4月26日に経済産業省が発表した「東日本大震災後の産業実態緊急調査」、「サプライチェーンへの影響調査」の結果を受けて当社でまとめたものです。いつ工場や材料などが回復するかという質問に対して、夏までには工場が89%は回復し、材料、部品などは10月くらいまでに72%が正常化するという結果がでています。これが実際に達成されれば、投資家も安心して日本株に向かってくと期待できます。さらに我々の調査では、この回復時期は想定よりも数ヶ月早いスピードで進んでいると考えております。被災した中小工場を大企業が助ける、また部品購入している企業や材料供給している企業などが、協力して被災工場を助けるなど、やはり団結力が回復のスピードを速めていると思います。

また、日本は地震国であり、最近でも阪神淡路や中越地震などを経験し、その経験から、どのように機械を設置すればいいか、またどのように復旧させればよいかなどのノウハウが蓄積されていることも回復を早めていると感じ、当初想定されていたよりも早いスピードでの回復が実現できているのではないかと感じます。

加えて、電力不足の問題から再度日本の技術力、例えば高い生産性と、省エネ性を持った日本の製品が欧米だけでなく新興国からも注目されるのではないかと思います。そしてその実績が現れる今年後半から株式市場は大きく回復するのではないかと期待しております。

今回の欧州出張で日本人以上に日本の技術、企業力を信じている人が海外にいることを感じたことが大きな収穫でした。我々日本人も自分たちの力を信じて、復興を祈り、また行動を起こしましょう。

\* 当コラムは執筆者の見解が含まれている場合があります、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の見解と異なることがあります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、  
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。  
スパークスの日本株の情報発信レポート

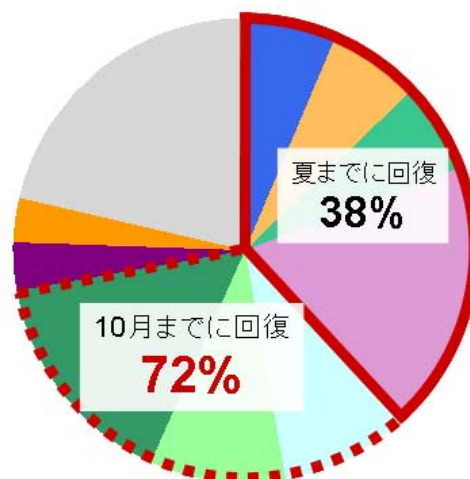
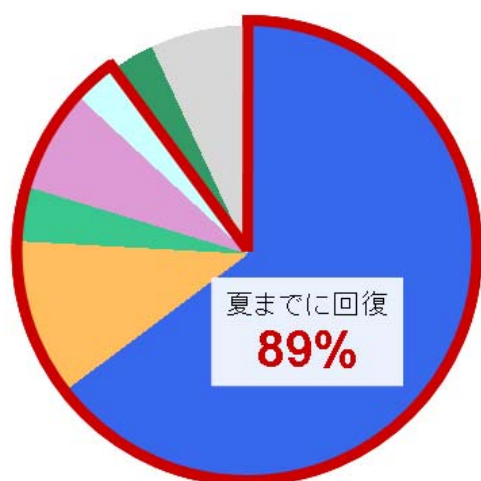


第61号 (2011年6月30日)

## 「震災と株式市場」

被災地の生産拠点復旧の状況・見通し  
[製造業全体]

十分な調達量が確保できる時期(見込み)  
[素材・加工業]



■ 回復済み ■ 1ヶ月以内 ■ 1ヶ月  
■ 2ヶ月 ■ 3ヶ月 ■ 4ヶ月から6ヶ月  
■ 6ヶ月から1年 ■ 1年以上 ■ 不明

■ 調達済み ■ 5月 ■ 6月 ■ 7月  
■ 8月 ■ 9月 ■ 10月 ■ 11月  
■ 12月 ■ 2012年以降 ■ 不明

出所: 経済産業省、「東日本大震災後の産業実態緊急調査」、「サプライチェーンへの影響調査」の結果を当社で編集



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。